

G7広島サミット・宗教者による祈りとシンポジウム  
2023年5月10日

# さあ今、いのちを選べ

西原 廉太  
立教大学総長

## 1 はじめに

- 世界のキリスト教諸教会の「核のない世界の実現」への願い
- ロシアによるウクライナ軍事侵攻の背景にあるキリスト教的なコンテキスト

## 2 「核のない世界の実現」を求めて

- WCCとは
- WCC中央委員会声明『核から解放された世界に向けて』(2014年7月)



## 2 「核のない世界の実現」を求めて

- WCCとは
- WCC中央委員会声明 (2014年7月)  
『核から解放された世界に向けて』
- 広島・長崎の「被爆者」と福島「被曝者」  
を「ヒバクシャ(hibakusha)」という日本語  
で繋げる

## 2 「核のない世界の実現」を求めて

『ヒバクシャ』という言葉は、苦しみ、社会的な烙印(スティグマ)、そして不条理な運命を含意しています。この言葉は、原子力爆弾が日本に投下された際、その犠牲者となった人々を指すものとして、最初用いられた言葉でした。1945年のヒバクシャは、こんな苦しい運命がこれ以上誰にも及ばないでほしいという希望を込めて、証言を続けています。そして今、そこに、2011年の被曝者が上げる核エネルギーへの非難の声が加わりました。この声に耳を傾け、その証言を自らのものとする。それこそは、キリスト者と教会の道理というべきものです。

## 2 「核のない世界の実現」を求めて

- あらゆる「核」に反対する第一義的根拠
- 「健康と人道と環境についての懸念」を生むこと
- 核(原子力)についての取り組みを進めてきたその神学的根拠
- 「正義」(justice)、「参与」(participation)、「持続可能性」(sustainability)

## 2 「核のない世界の実現」を求めて

- WCC『環境における正義と環境への負荷』  
声明(2009年)
- 軍事利用と民生利用の両方に懸念
- ①「環境への負荷」  
②「限りない消費の時代」  
③「経済的・環境学的成果」

## 2 「核のない世界の実現」を求めて

- WCC第10回総会(2013年・釜山)
- 「朝鮮半島においては、敵対と競合と軍備に彩られた安全保障よりも、互いに人間の命を守ること (shared human security) にこそ、高い優先順位を置くようにならなければならない」
- 北東アジアにおける核発電所と核兵器を廃絶することを求める

## 2 「核のない世界の実現」を求めて

- WCC第2回総会(1954年8月・エヴァンストン)
- 同年3月にビキニ環礁水爆実験
- 第五福竜丸被曝、久保山愛吉さん死亡
- 日本における原水爆禁止のうねり
- 日本キリスト教協議会(NCCJ)代表団の貢献

## 2 「核のない世界の実現」を求めて

- 原子力エネルギーは再生可能でもないし、持続可能な資源によるものでもない
- 原子力エネルギーはクリーンで環境に優しいという欺瞞
- 原子力エネルギーは限りなく高コスト

## 2 「核のない世界の実現」を求めて

- 原子力と核兵器の「連結可能性」
- ウクライナでの事態に象徴される通り、民間施設であれ、軍事施設であれ、原子力施設は、テロや戦争の標的となる

## 2 「核のない世界の実現」を求めて

- WCCの核を否定する神学的根拠
- 「正義と平和の巡礼としての、核からの出エジプト」

## 2 「核のない世界の実現」を求めて

■ 神は惜しみなく与える創造者です。神は、原子・分子のレベルから生命を呼び出して世界に豊かないのちを授ける方です。したがって、命を脅かし破壊するような原子力の使い方、それは神の被造物の誤用であり、罪深いことです。私たちに求められる生き方とは、いのちを守ることです。生命をリスクにさらすことではありません。恐怖しながら核兵器で身を守って生きることも、原子力エネルギーに頼って無駄遣いの中に生活することも、いのちを守ることではありません。

## 2 「核のない世界の実現」を求めて

■ 1990年代に、北部カナダに住むサートゥ・デネの人々は、数名の長老たちを代表として日本に送り、謝罪を行いました。自分たちの大地から採掘されたウランが1945年に広島と長崎を破壊した原爆に用いられたことを知ったからです。神は<いのち>と<死>を私たちの前に置かれる。祝福と呪いを、私たちの前に置かれる。私たちと私たちの子孫が生きられるように、神は呼びかけて言われる。

「さあ今、<いのち>を選べ」(申命記第30章)と

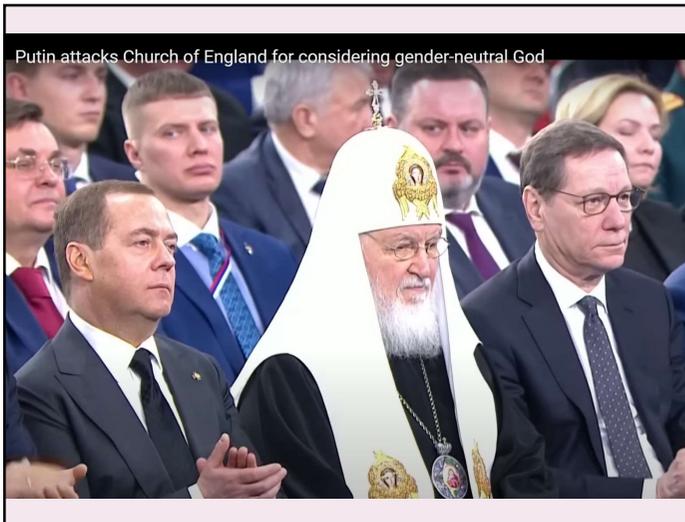
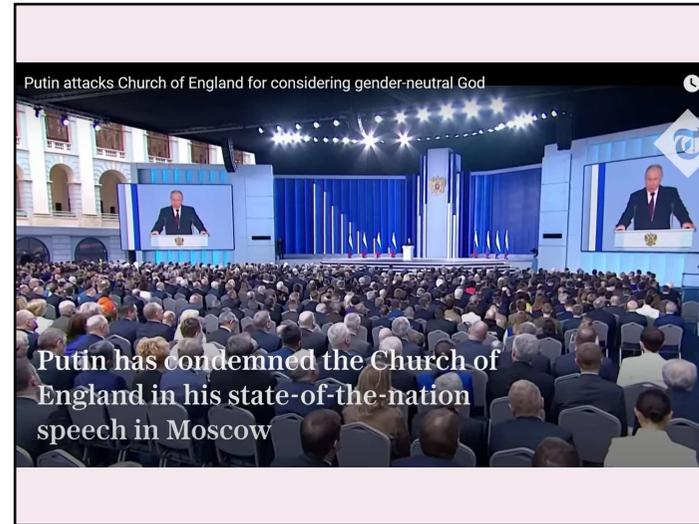
## 2 「核のない世界の実現」を求めて

■ ウクライナの地でこの時も武器が用いられ、尊い命が奪われ、核の脅威が格段に高まっている現下の事態の中で、私たちは、今こそ<いのち>を選ぶようにと変わらなければならない

■ 戦争と暴力、死と核の恐怖から脱出する、<正義と平和・いのち>の道を選び、共に歩まなければならない

### 3 ロシアによるウクライナ軍事侵攻の背景にあるキリスト教的コンテキスト

- 衝撃的だったロシア正教会キリル総主教のプーチン大統領全面的支持
- WCCによるアプローチ
- 今回の事態の背景にある14世紀以来のロシアとウクライナにおける正教会間の歴史的緊張関係



### 1 おわりに

- 宗教をめぐる諸問題が、国家の軍事的暴力の一つの根拠とされるという事態に直面して、私たちの宗教者の責任が厳しく問われている
- 同時に、この世界が<いのち>を選びとり、対立を和解へと導くために、私たち宗教者が為すべきこと、為せることは限りなく大きい

